自己評価結果公表シート　（令和７年度）

学校法人　明和学園　明和幼稚園

１．本園の教育目標

明るく、正しく、和やかな人間形成を目指し、自立の精神を以て何事にも丁寧に経験していくことを方針としている。楽しいこと､悲しいこと、しんどい事。それらの一つひとつを「ていねいに、ていねいに」経験を積み重ね、一人ひとりの個性を大切に、いきいきとした子どもを育む。

満３歳児…１人ひとりの子どもの発見や気づきを共感し、豊かな経験を積み重ねる。

年少組…子ども達が安心して集団生活に慣れるように、子ども達それぞれの個性や感性を大切に育む。

年中組…自分と相手（友達）の存在を大切に、皆と力を合わせることで、満足感や充実感を得ていく。

年長組…自分で考え、活動を見出す。様々な経験を通して、就学に向けて自立を促す。
周りへの思いやりや理解を育む。

２．本年度、重点的に取り組む目標。

指導計画	・建学の精神、ビジョンを実現させるために、今必要なものは何か。何を大切にするのかを考える。 ・建学の精神を大切にしながら、変化の大きい現代に必要なものは何か。何を大切に保育に取り組むかを考え、実践する。 ・指導計画を常に見直し、どのような時にも子どもが中心、子どもファーストであり続ける。 ・外部の研修などにも参加し学びを深め、子ども達にとって、より良い教育を目指し誇りを持って保育を行う。 ・音楽あそびを積極的に行い、様々な音に触れて過ごす。 ・本物に触れる経験、機会を多く取り入れる。 ・自然体験を大切にする。 ・主体性のある保育を考え、実践する。 ・自由遊びの時間の遊びの展開を援助する。子ども達が主体的に考え、遊びが広がる環境を作る。 ・クラスの子どもだけではなく、全園児との関わり、外遊びの際や違うクラスに

	遊びに行くなどの関わりを持つ。 ・小学校との関わり、小学校に向けて取り組みを行い、意欲を高める。 ・ワクワクするような体験を子どもと一緒に取り組む。 ・子ども達の発達や様子に合わせ対応する。 ・子ども達がのびのびと自分を出せる場所、安心して過ごす環境を作る。 ・子どもと同じ目線で物事を見て活動や保育を行う。 ・支援の必要な子ども達への関わり方、フォロー体制を考える。
職員の共通理解	・「和顔愛語」をいつも心に留めて過ごす。 ・ＬＩＮＥやGoogleドキュメントで共有することで、職員全員の共通理解を効率的に行う。 ・自身の仕事だけではなく、俯瞰的に物事を観察し、効率的に園全体の仕事が円滑に進められるように配慮し過ごす。
家庭との連携強化とニーズの把握	・園児１人ひとりの行動に目を配り、日々の保育の様子を保護者に丁寧に伝えていけるよう、保護者とのコミュニケーションを深める。 ・教育方針、園の様子を《れんらくアプリ》《おうちえん》《ホームページ》《Instagram》でわかりやすく伝えていく。 ・子どもの心身の健やかな成長の為に、為合わせ制度を継続させる。 前年度の反省を生かしながら、見直し改善を行う。 保護者のニーズや満足度を把握し、保育や行事の内容を考える際の検討材料にする。 ・親子学級は、保護者同士や保護者と職員とのコミュニケーションを図り、子ども達だけではなく、園生活を保護者に楽しんでもらえるようなプログラムを考える。
安全管理	・定期的な避難訓練を継続実施し、更なる防災意識の向上を図るとともに研修を行い、防災用品の点検、補充など、安全対策を図っていく。 ・子ども達の主体性を育む、自立に向けた保育環境を作るために、声掛けの仕方や教員の配置を話し合い、心の成長に目を向ける。 ・キンダーカウンセラーの相談を継続し、園児の様子を見ていただく。同時に園児との関わり方について、教員に助言をいただきより良い保育を目指す。 ・キンダーカウンセラーに保護者の悩みを気軽に相談できる環境を作る。 ・定期的なアレルギー委員会を行い、安全に給食提供をする。

３．評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
指導計画	・過去の指導案の見直しや話し合いによって、子どもの発達や季節に応じた年間計画、月案、週案を作成・確認し、保育に取り組んでいる。 ・満３歳児→『表現遊び』音・身体・手先を使って「なりきり」や「見立て」を楽しむ。最初は恥ずかしく出来なかった子も自然に音に合わせて身体が動くようになった。造形活動では、五感を働かせ「創る」楽しさを味わった。

	・年少組→『体感遊び・感触遊び』簡単なサーキットからスタートし、少しずつ難易度を上げ、バランス感覚を高めながら、活動を発展させた。繰り返し経験することで自信を持って挑戦する姿が見られた。感触遊びでは、様々な素材に触れながら手や指で違いを楽しむ。それぞれの感じ方、表現方法の違いを認め、表現力、感覚を高めた。 ・年中組→『絵本』読むだけでなく、製作や音楽と組み合わせ、一緒に楽しんだ。楽しみながら、ひらがなを覚え、子どもたち同士で絵本を読む姿も増えた。日常生活で気になったことを自ら本で調べ、学ぶ姿もあり、興味関心を持つ姿に成長を感じた。 ・年長組→『紙と遊ぼう』身近にある紙にも様々な種類・素材があることを知り、想像力を膨らませ製作活動を行った。紙漉きに挑戦し牛乳パックからはがきを作成した。 ・毎日の日案を書くことで、1日の見通しを立てゆとりをもった気持ちで進めることができた。 ・子どもが自信を持つために褒めることを意識し、普段から子ども達が自分で頑張ろうと思えるような仕掛けを作った。 ・支援が必要な子どもに対し、どのように声を掛け対応すれば、保育に参加できるか？楽しむ事ができるのかを考え、実行した。 ・リズムレッスンでは、基本リズムで動くことを継続的にしたことで、定着している様子が見られた。 クラスでピアノを弾き、生の音を身体で感じてもらう事に努めた。朝の体操の曲をクラスで弾き、共に楽しんだ。音楽は楽しいと感じてもらえたら嬉しい。 ・年齢、学年に応じて、各クラスで実験などを行い、興味関心のきっかけづくりができた。 ・預かり保育では、家庭にいるようにゆったりと子ども達が楽しめるように環境作りを心がけた。
職員の共通理解	・『和顔愛語』を今年のテーマとし、穏やかな顔と優しい言葉で接することを心がけることで、『いつもにこにこと』のモットーへの自分の振る舞いを見つめる1年となった。 ・クラス補助として、クラスの先生方の意図を汲み、保育が円滑に進むよう、フォローに努めた。 ・子ども達との些細な言動もクラスの担任に伝える事で今までよりコミュニケーションを図る事が出来た。 ・教職員の仕事を効率的に行い、時間を有効に使う意識を持つことが出来た。 ・職員研修ではハラスメント研修を実施し、一人ひとりの意識の基準を見直した。 ・Googleドキュメントやタイムツリーなどの活用が定着。保育指導要録をデータ管理への移行を進めることが出来ている。
家庭との連携強化とニーズの把握	・為合わせ制度。保護者に無理のない仕組みで、子どもたちの未来のために幼稚園のお手伝いをいただく。昨年度の課題を改め、より良い制度にアップデートできた。保護者の皆さまには、様々な家庭事情の中でもそれぞれに、幼稚園へ

	の協力をいただき、おかげで円滑な幼稚園教育が進められた事に感謝するとともに、幼稚園として気を引き締めて今後も運営をしていく。 ・未就園児対象に、にこにこ広場や園庭開放を行い、親子で気軽に参加してもらえるよう努めた。 ・親子学級では色々な体験や講演で多くの保護者が参加し、保護者同士、保護者と職員など様々なコミュニケーションを図ることができた。保護者にも喜んでいただけ、園のことに関心を寄せていただける充実した学級活動となった。 ・朝、帰りの際には、保護者に積極的に声をかけ、安心して子どもを預けられるよう努めた。個人懇談会では、保護者から園児の家庭での様子を聞き、園でのエピソードを通じて、保育方針の説明や協力をお願いした。 ・ホームページをリニューアルし、スマホやタブレットに対応できるようにした。Instagram を活用し、日々の様子の発信を行っている。
安全管理	・避難訓練を定期的に行い、警察や消防に助言をいただいている。 ・学校安全計画、保健計画を定め、行っている。 ・登降園時には、必ず職員が通用門と駐輪場に立ち、園児、保護者の安全に気を配っている。 ・防犯カメラや ALSOK との連携、県警ホットラインで園児の安全を確保しているほか、日頃から園内の安全点検をして、園児が怪我をしないように（危険の排除、怪我をした際の記録・原因究明・再発防止策）を講じている。 ・バス《置き去りキャッチ》は併用式で、降車時に居残りを巡回点検し、更にセンサーで見落としをチェックしている。園独自として続けている《たすけてボタン》は、中に取り残された際に、園内の職員に園児自ら知らせることが出来る。 ・園児・保護者・教員の心のケアのため、キンダーカウンセラーに定期的に来ていただき、助言をいただいている。 ・アレルギー委員会を定期的に行い、安全で確実な給食提供をした。 ・定期的に遊具など、園内の安全点検を行い、ドキュメントで管理。職員の共通理解をすることで、重複や抜け漏れを防ぎ、急を要する事案以外は長期休暇などに修繕を行った。

4．今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
指導計画	・建学の精神を大切にしながら、変化スピードが上がっている現代に必要なものは何か。何を重要とし、何を取り入れ、何を手放すのか。選択と実践を大切にする。 ・指導計画を常に見直し、どのような時にも子どもが中心、子どもファーストであり続ける。 ・外部の研修などにも多く参加し、様々な学びを取り入れながら、子ども達にとって、より良い教育となるよう、自分自身を高め、自信と誇りを持って保育を

	行う。 ・本物に触れる経験、機会を多く取り入れる。 ・自由遊びの時間の遊びの展開を援助する。子ども達が主体的に考え、遊びが広がる環境・仕組みを作る。 ・クラスの子どもだけではなく、全園児との関わりを持つ。 ・小学校との関わり、小学校に向けて取り組みを行い、意欲を高める。 ・子ども達がのびのびと自分を出せる場所、安心して過ごす環境を作る。気持ちに寄り添いながら信頼関係を築く。 ・子どもと同じ目線で物事を見て活動や保育を行う。 ・支援の必要な子ども達への関わり方、フォロー体制を考える。 ・療育施設との連携を図る。
職員の共通理解	・「先意承問」（相手を思いやり行動する。人々のつながりを深める）をいつも心に留めて過ごす。 ・職員同士のコミュニケーションを取る機会を設ける。 ・自身の考えに偏りがないか？と思考し、他者の考えを受け入れる。 ・既成概念や固定観念に縛られず、多角的な視点で物事を見る。それにより、独創的なアイデアを生み出せるように日々思考する。
家庭との連携強化とニーズの把握	・園児１人ひとりの行動に目を配り、日々の保育の様子を保護者に丁寧に伝えていけるよう、保護者とのコミュニケーションを深める。 ・教育方針、園の様子を《れんらくアプリ》《おうちえん》《ホームページ》《Instagram》で情報を発信する。 ・子どもの心身の健やかな成長の為に、為合わせ制度を継続する。 保護者のニーズや満足度を把握し、保育や行事内容を考える際の検討材料にする。見直し、改善を行う。 ・親子学級では、保護者同士や保護者と職員とのコミュニケーションを図り、子ども達だけではなく、園生活を保護者に楽しんでもらえるようなプログラムを考える。 ・キンダーカウンセラーに保護者の悩みを気軽に相談できる環境を作る。
安全管理	・定期的な避難訓練を今後も継続実施し、更なる防災意識の向上を図るとともに研修を行い、防災用品の点検、補充など、安全対策を図っていく。 ・保護者証を取り入れ、防犯意識を高める。 ・子ども達の主体性を育む、自立に向けた保育環境を作るために、声掛けの仕方や教員の配置を話し合い、心の成長に目を向ける。 ・キンダーカウンセラーの相談を継続し、園児の様子を見ていただく。同時に園児との関わり方について、教員に助言をいただきより良い保育を目指す。 ・定期的なアレルギー委員会を行い、安全に給食提供をする。

5．財務状況

・公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。